

## 東京凌霜謡会(2019年)の活動状況

2019(平成31・令和01)年

(平成31)

1月27日 世話人から12日に行われた「凌霜謡会」への参加報告がありました。

また、世話人から平成30年の会計報告と伏見さんから監査報告があり、承認されました。

2月例会の終了後、久し振りに「懇親会」を開催する旨の報告があり、参加予定者の確認が行われました。(10名参加の予定です。)

1月30日 首都圏在住の卒業生あてに23通の入会勧誘上を出状しました。

2月23日 1月30日に首都圏在住の卒業生あてに出状した勧誘上の中間報告がありました。現時点では入会者はいませんが、見込みのある数人のフォローを引き続けていきます。

1月から調査・整理中の「当謡会のあゆみ」について原案を提示し、ご意見を伺っています。修正後、3月か4月にホームページに掲載の予定です。

例会終了後、3年振りに懇親会を開催しました。(参加者9名、会費¥1,500)

3月23日 1月から調査・整理中の「当謡会のあゆみ」について確定版を提示し、近々HPに掲載予定である旨をお知らせしました。

本年も、7月27日(第4土曜日)に「全国大学学生・IB謡曲連合会謡会」が開催される予定で、今回も「神戸大学OB」で参加の予定。本件の幹事として昨年同様山本秀人氏に、申し込み・曲目選定・出席者募集等の諸手続きを依頼しました。

3月29日～ ホームページ「神戸大学謡曲愛好家広場」--東京凌霜謡会--投稿(当会関係)に「東京凌霜謡会のあゆみ」を掲載しました。併せて、同HPの構成を変更し、順次、内容の充実をはかっています。

4月27日 4月例会より、山口剛さん(S49年卒)が入会されました。一方、永年一緒に謡ってきたビジターの山本京さんが「一人での外出が困難になった」とのことで、大会の申出がありました。4月の異動を踏まえて、本日現在の会員数は16名です。

また、向濱より4月15日に木母寺で行われた「梅若忌」様子の報告がありました。

(内容は当HP「投稿」--「能楽情報」をご参照ください。)境内で奉納された謡曲「隅田川」(「げにや人の親の心……」～おわり)のシテを勤められた梅若康志氏は岩崎勝至さんが習っている先生だそうです。

(令和元年)

5月25日 年号が「平成」から「令和」に変わって初めての例会です。山本秀人氏から昨年からの参加の「全国大学学生・OB・OG能楽連合会」(今回より会の名称が変更になりました)について次の報告があり、参加者の確認と配役の決定を行いました。

・7月27日に開催される〃連合会に今年も「神戸大学(観世流)OB」として参加

・連吟「班女」(シテ=山本、地頭=谷村)でエントリー

・7月例会終了後「班女」の申し合わせをするので、謡本を持参のこと

また世話人より、2020年の例会で演ずる希望曲名および会の運営に関する要望事項等の提出(期限=6月29日)依頼がありました。

6月29日 今回より例会出席者に、大角征矢氏(当会の第6代幹事、S29年卒)著の「能

「能・謡ひとくちメモ」を順次配布することにしました。予め編集者の久下昌男氏（S38年卒）にはご了解を頂いています。第1回は（第17話）『「三好み」あれこれ』を配布し、好評を得ました。

7月27日に予定されている「全国大学学生OB・OG能楽連合会」の出席者の最終確認を行い、例会終了後「班女」の申し合わせをしました。次回7月例会でも、最終の申し合わせをして同連合会に臨みます。

7月20日 今回より、森本雅昭さん（S42年、工学部卒）が入会され、会員数は17名（うちビジター2名、長期欠席者3名）になりました。

「能・謡ひとくちメモ」は、（第2話）『君ならずして誰かあぐべき…《井筒》』を配布し、その解釈について話し合いました。

例会終了後前回に続いて、「班女」の申し合わせを行い、7月27日に備えました。

7月27日 昨年に引き続き、「全国大学学生・OB・OG能楽連合会」に当謡会の有志（清見・谷村・山本・伏見・向濱の5名）で参加しました。例年通り、新宿神楽坂の矢来能楽堂で10時に開演、当謡会は連吟「班女」（シテ＝伏見、地頭＝谷村）を謡いました。詳細は別途報告の予定です。

8月24日 本年8月例会は、通算750回の例会に当たります。例月通り、5番の素謡を出席者11名で元気よく謡いました。

「能・謡ひとくちメモ」は（第31話）「謡曲と季節」を配布しました。また、2020年の年間予定表（案）を提示し、出席者の賛同を得ました。

山本氏より、7月27日の連合会謡会の席で、大阪市大の竹内氏より合同謡会の提案があった旨の報告があり、出席者で協議の結果「一橋大を加えた三大学での謡会開催を検討する」方向で再提案することにしました。

8月29日 故今泉昌長様（S23年卒、H27.1.5逝去）の未亡人アサ子様より、遺品の謡本138曲、141冊が当謡会に寄贈されました。対応については次回例会で出席者と相談する予定です。

9月28日 9月例会では「能・謡ひとくちメモ」は（第5話）『曲名の呼び方と書き方』を配布し、「菊慈童」と「枕慈童」、他流派との違いを学ぶとともに、会誌「凌霜」から高田透氏投稿の「音申吉氏と謡曲」（抜粋）を配布して、当会創設者の謡曲観や高田氏の考え方などを振り返りました。

故今泉氏の遺本については、会員希望者に頒布することとしました。

「三大学卒業生謡会」については11月30日に初回開催の方向で調整中です。

10月26日 反田雅之さん（S56年卒）が神戸へ転居することになり、今回が東京での最後の例会となりました。同氏の退会に伴い当会の会員数は16名（うちビジター2名、6か月以上の長期連続欠席医者は3名）となります。

「能・謡ひとくちメモ」は（第39話）『「序破急」の意味をどう考えるか』を配布し、流祖世阿弥の考え方を学びました。

「三大学卒業生謡会」は11月30日に東京六甲クラブで初回開催の運びとなりました。開催要領・番組等の詳細は別途山本氏から通知の予定です。

故今泉氏から寄贈された謡本は、希望謡本を会員各位に頒布の後、残本65冊を山本氏経由で松戸の「矢切舟謡会」に寄贈することになりました。

- 11月23日 世話人から来年初1月11日に大阪で開催される「凌霜謡会」についての紹介のうえ、出席者を募りましたが、残念ながら今回も参加希望者はいませんでした。
- 「能・謡ひとくちメモ」は(第6話)「謡曲と現代日常語」を配布し、『船弁慶』の《人口》や『実盛』の《老眼》の意味などを確認しました。
- 山口さんからMailがあり、「体調不良のため当面協会したい」旨の申出がありました。一日も早い回復と当会への復帰を祈念します。
- 例会終了後、11月30日の「三大学卒業生謡会」に向けて、素謡『清経』の申し合わせを行い、本番に備えました。
- 11月30日 「第1回三大学卒業生謡会」が当会幹事で東京六甲クラブにて開催されました。香謡会(大阪市大)8名、如水観世会(一橋大)6名と当謡会7名(西山・清見・高橋・向濱・谷村・山本・伏見)の参加を得て、盛大な発足の謡会となりました。合同素謡3曲、連吟3曲を力強く謡ったのち直ちにクラブ内で懇親会が開かれ、各謡会の概要報告や50年以上前の三大学謡会の話などで大変盛り上がりました。午後5時、来年(幹事=香謡会)の再会を約して解散しました。
- 12月24日 山本秀人氏が「三大学卒業生謡会の発足と第1回会合」につき、当HP(投稿・本会関係)への投稿がありました。
- 12月28日 12月例会では当日の曲目に因んで「能・謡ひとくちメモ」は(第3話)「《鉢木》もう一つの見方」を配布し、この曲を好きになれない能楽師もいることを知りましたが、そんなことは無視してみんなで力強く謡い切りました。
- 長期間休会中の熊野さんの出席が期待されましたが、残念ながら今回も体調が思わしくなく欠席となりました。早期の回復を祈念いたします。
- また、山本氏から11月30日の「三大学卒業生謡会」の会計報告があり、世話人から現時点における「東京凌霜謡会会員名簿」の配布がありました。